

## 特集 クラウドファンディング～インターネットを利用した新しい資金調達～

### 【クラウドファンディングとは】

クラウドファンディング（以下、CF と略す）は、米国発祥のサービスといわれ、Crowd（＝群衆）とFunding（＝資金調達）を掛け合わせた造語で、資金を必要とするプロジェクト等がインターネットを介して、不特定多数の人々から比較的少額な資金を幅広く調達する手段を意味します。日本では、2001年に初めてサービスが提供され、その後、2011年の東日本大震災をきっかけに、被災地復興事業の資金調達という形で一気に広まりました。

### 【最近のニュース】

新聞紙上などで、次のような記事が目につきました。

- ①東村山市の写真家・宇井真紀子さん（武蔵野美大卒）が、7年間かけ撮影したアイヌの人のポートレート写真集『アイヌ、100人のいま』（冬青社）を出版し、その資金をクラウドファンディングで調達した。（支援総額1902千円／目標金額1000千円）
- ②神戸市の摩耶山にある旧・摩耶観光ホテルが廃墟と化していたのを、クラウドファンディングで資金を集め、文化財として登録する方向に動き出した。（支援総額7252千円／目標金額5000千円）
- ③徳川家康をまつる静岡市の久能山東照宮が、所有する徳川家歴代15代将軍の具足の修復費集めにクラウドファンディングを利用した。（支援総額6835千円／目標金額5000千円）

（①2017/6/8 [タウン紙 asacoco](#)、②③2017/8/14 [日経夕刊](#)）注：支援総額等は掲載サイトから

### 【クラウドファンディングの仕組み】

CFの考え方や仕組みは、日本でも鎌倉時代から、寺院や仏像などの新造・修復・再建のため庶民から広く寄付を求める「勸進」という形で存在していました。今年5月竣工した奈良市の薬師寺の食堂（じきどう＝僧侶が食事し修行する場）復興資金は「お写経勸進」によるものだそうです。

CFと「募金」との違いは、自らのホームページなどで資金援助を呼びかけるのではなく、専門の事業者がCFのために開設したサイト（プラットフォームとも呼ばれる）で提供される、資金調達のためのサービスを利用するという点にあります。その際の手数料は8%～20%程度です。

### 【クラウドファンディング国内市場】

国内でCFを扱う企業数は2016年6月末時点では140社程度と見られており、CFには「寄付型」、「購入型」、「投資型（ファンド型）」、「貸付型」、「株式（投資）型」の5つのタイプがあります。そのうち、個人やNPOな

どの団体が資金調達に多く利用しているのは、「購入型」と「寄付型」です。

購入型CFでは、支援者は特定のプロジェクトに対して出資します。出資に対するリターン（謝礼）は、そのプロジェクトが提供する製品・サービスや特典です。支援者はこれらの製品やサービスを購入する形をとるので、「購入型」と呼ばれます。リターンの内容は出資金額に応じて変わるのが一般的です。前述のニュース①写真家・宇井さんのリターンは出版した写真集などでした。

寄付型CFは、お金を必要としている個人やNPOなどの団体が、多くの人に対して寄付を募るタイプです。金銭的・物質的なリターンはありませんが、寄付を得た人からの感謝や、社会問題の解決に貢献しているという一体感・達成感が得られます。

ネット上には、CF比較ランキングサイト「ランクラウド」(<http://runcrowd.jp/>)があり、多くのサイトが紹介されています。国内の購入型では、「[CAMPFIRE](#)」、「[Readyfor](#)」、「[Makuake](#)」などが代表的なものです。国内の寄付型では「[JAPANGIVING](#)」などがサービスを提供しています。

### 【クラウドファンディング達成率日本一】

2014年、本好きな青年（森俊介さん）が「渋谷に夜の図書室を！」と募集したプロジェクトは、目標金額10万円、募集期間1か月のところ、わずか2日でパトロン（このサイトでは支援者をパトロンと呼んでいます）1737人から合計953万円の応募があり、達成率9530%となりました。達成率日本一といわれています。

### 【ガバメントクラウドファンディング】

近年、地方自治体などが、ふるさと納税制度を活用した「ふるさと投資」として、CFを使った資金調達を行っています。これをガバメントクラウドファンディングと呼んでいます。支援者は寄付をした額がふるさと納税として扱われます。

国分寺市では市内の観光案内板20基の設置費用200万円をCFサイト「[ふるさとチョイス](#)」で募集したところ、1か月足らずで目標を達成しました。また、墨田区では「すみだの夢 地域応援プロジェクト」と称して、区が全体のプロジェクトオーナーとなり、区内で活躍する団体から7つのプロジェクトを集め、サイト「ふるさとチョイス」でCFを実施中です。個々のプロジェクトは、新日本フィルハーモニーなどそれぞれのプロジェクトオーナーが実施するものですが、サイト掲載の手数料は区が負担するというものです。社会貢献活動助成の新しい形といえます。

以上のように、クラウドファンディングは、個人、団体を問わず、社会貢献活動に必要な資金を調達するのに有力な手段となっており、今後もさらに拡大していくものと思われます。（文責：長瀬）



